

# 「出張」にでかける 地方の神さま

たけむら よしあき  
竹村 嘉晃  
民博 外来研究員

ココ椰子の木々が生い茂るインド南西部のケーララ州。緑豊かなこの地域の北に位置するカンヌール県で、わたしは土着の神霊を祀る儀礼について、ここ数年来調査を続けている。最近、その儀礼の担い手たちが依頼を受けて、ムンバイやチェンナイといった州外の都市部へ出かけていく姿をわたしは何度も目にするようになった。



さまざまな画像画が売られている日用品店の店先

祝福と託宣を与える土着の神さま  
地元のヒンドゥー教徒たちのあいだでは、ムッタツパンとよばれる土着の英雄神とその儀礼が人気を集めている。市街を散策すると、バスやオートリキシャのフロントガラス、レストランや日用品店の店先などに、ムッタツパン神のご利益にあやかろうと画像画やステッカーを祀っているのが目にとまる。ムッタツパンの讃歌が入ったカセットテープやCDなども広く出回り、ムッタツパンの巡礼地として有名な寺院は、毎日、州内外から訪れる多くの参拝者で賑わっている。

ムッタツパンは、観念的なヒンドゥーの神さまとは異なり、指定カースト（不可触民）の男性の身体を介して、人びとの前に姿をあらわす。そして、参拝者一人ひとりの悩みに耳を傾け、かれらに祝福と託宣を与える。参拝者のなかには、ムッタツパンのことばに感極まって涙を流す者や、自らが抱える問題を言い当てられ、呆然とする者がいる。「ムッタツパンに尋ねれば、必ず答えが返ってくる」



化粧を終え装束を身につけるムッタツパンの担い手

と地元の人びとが語るように、ムッタツパン信仰の人気の秘密は、ムッタツパンが語る託宣の確さとその神秘性にあるようだ。

この土着の神さま、じつは酒好きとしても知られている。ムッタツパンの儀礼では、バラモン（最高位のカースト）が司祭を務めるヒンドゥー寺院では見られない、ヤシ酒や干し魚が供物として捧げられる。最近では、ブランドーやラム酒のほか、中東沿岸諸国からの出稼ぎ帰国者たちがもたらす外国産ウイスキーも見かけるようになった。儀礼の際、

ムッタツパンはそれらの酒瓶を手にとると、数名の男性参拝者を呼びつけて、プラサーダム（お下がり）という名目で彼らに酒をふるまい、冗談まじりに酒を酌み交わす。

## 出稼ぎ移民による送金と信仰の隆盛

古老たちの話では、むかし、ムッタツパンの儀礼は祠で年に一、二回程度しかおこなわれなかったという。しかしながら、わたしがフィールドに通い始めてからここ数年までのあいだに、毎週定期的に儀礼をおこなう祠が増え、個人宅での儀礼奉納も活発におこなわれるようになってきている。その理由を古老たちに尋ねると、「ガルフの金だよ」と彼らは口をそろえる。

産業基盤が乏しいケーララでは、「親族内に必ず一人はいる」と言われるほど、仕事を求めて州外や中東沿岸諸国（ガルフ）へ出稼ぎに出かける者が多い。そして、彼らからの送金で生活を営む家族は、そのお金を住宅の新築や



儀礼の場に姿をあらわすムッタツパン神

土地の購入、個人消費財などに費やしている。近年、こうした送金をもとに儀礼奉納をおこなう人びとが増えている。新築祝いをはじめ、結婚、出産、試験合格、就職などの祈願成就のほか、親族関係や仕事上の問題といった日頃抱えるさまざまな悩みを解決するため、人びとはムッタツパンに託宣を求める。ムッタツパンの担い手たちのもとには儀礼の依頼が殺到し、それらのなかにはローカルな文脈だけでなく、州内外からのものも含まれている。

## 地方の神さまが大会にあらわれる

デリーやムンバイ、チェンナイといった大都市のほか、他州で暮らすケーララ出身の移住者たちのあいだでは、最近、コミュニティの催しとしてムッタツパン儀礼がおこなわれるようになった。ムッタツパンの人気は州外でも高く、祠を建立する動きもいくつかみられるほどである。

急速な経済成長を続ける現代インド社会では、都市部を中心に中間層の生活が急速に変化している。消費社会が広がる一方、共同体的なつながりはますます希薄になっていくなかで、ムッタツパン儀礼は、個人の悩みを解決するだけでなく、ケーララ出身者としてのつながりやアイデンティティを強める働きをもっているようである。

ムッタツパンという地方の神さまは、ケーララ人のニーズに応え、ローカルな文脈だけでなく、州内外のさまざまな場にも「出張」



ケーララ出身の移住者コミュニティが主催する儀礼の様子（ムンバイ マハラージェラ州）

している。こうした動きは、それまで儀礼の報酬だけでは生計を営むことが困難であった、担い手たちの生活環境や社会的な状況にも大きな変化をもたらしている。

二〇〇九年、久しぶりにカンヌールを再訪した際、そこには中東のドゥバイでおこなった儀礼の様子を自慢げに語る、担い手の友人の姿があった。ムッタツパンは、とうとう海外にまで「出張」するようになったのだ。ケーララの神さまの今後の動向がますます気になってきた。